

学校図書館、公共図書館、開倫塾を、自分の「サードプレイス(第三の居場所)」にしよう！！

開倫塾

塾長 林明夫

Q1：「サードプレイス（第三の居場所）」とは何ですか。

A：(1)英語の「プレイス (place)」には、「場所、居場所、～にとってふさわしい場所」という意味があります。

(2)多くの人々にとって、「家庭」は「ファーストプレイス（第一の居場所）」、「学校や職場」は「セカンドプレイス（第二の居場所）」です。



(3)「サードプレイス（第三の居場所）」とは何か。趣味やボランティア、友人の集まりなどを「サードプレイス（第三の居場所）」と呼ぶ人も多いようです。

(4)そこには、「人間にとって欠かせない、ゆるくて心地のよい、気楽な関係性がある」ようです。

(以上、月刊誌「倫風」2023年4月号19ページ、一般社団法人実践倫理宏正会刊を参考にさせていただきました)

Q2：なるほど、「人間にとって欠かせない、ゆるくて心地のよい、気楽な関係性がある、自分にとってふさわしい場所」を、「サードプレイス（第三の居場所）」というのですね。

A：(1)その通りです。毎日寝起きする「家庭」は、生活の中心の場所です。「学校や職場」は、学び働く、大切に欠かせない場所です。このほかに、「ゆるくて気軽な、行けばほっとできる、自分にとってふさわしい居場所」があると、誰にとってもありがたいものと思います。



(2)私は、その「サードプレイス(第三の居場所)」に、「学校図書館」と「公共図書館」、そして「開倫塾」も入れていただきたいと希望し、皆様にご提案いたします。

(3)①なぜなら、学校図書館、公共図書館、開倫塾を「ゆるくて気軽な、行けばほっとできる、自分にとってふさわしい居場所」と考え、大いに慣れ親しんでいただきたいからです。

②そして、学校図書館、公共図書館、開倫塾に居ることを、皆様の生活の一部、「生活習慣」「学習習慣」としていただきたいからです。

③高校卒業後に大学に進学したら、「大学図書館」を皆様の「サードプレイス（第三の居場所）」にして、大いに慣れ親しんでいただきたく希望します。

④学校を卒業して社会人になったら、近くの、また、各地の「公共図書館」に慣れ親しみ、大いに活用。充実した人生、質の高い一生を歩んでいただきたく希望します。

**Q 3 : なぜ図書館なのですか。**

A : (1)①現代は、「知識が基盤になった社会（知識基盤社会）」だからです。

②また、現代は、「グローバル社会」だからです。

③さらに、現代は、課題が山のように積み上げられた「課題山積社会」だからです。

(2)図書館に慣れ親しみ、毎日、毎週のように通いつめる。辞書を用いて意味のよくわからない語句を調べる。新聞・雑誌・新刊本を読み、地域や日本、世界の新しい動きを知る。じっくり腰を落ち着けて読書をし、「著者との時空を超えた対話」で思慮深さや省察力を身に着ける。これらのことは、激動する現代にとり必要不可欠だからです。

(3)小学校、中学校、高校で「学校図書館」や「公共図書館」に慣れ親しんで初めて、大学に進学したときに、大学の学問的中心である「大学図書館」を活用することができます。



**Q 4 : なぜ開倫塾なのですか。**

A : (1)なぜなら開倫塾では、午後から夜 10 時 30 分(東京は 10 時)まで、自分の好きな勉強を自由に自学自習できるからです。

(2)開倫ユネスコ協会が主催する「文芸大賞」の作品を、自由自在に作り応募できるからです。童話・小説、詩・短歌・俳句、エッセイ、デザイン、新聞など様々な分野(ジャンル)の作品を、自由自在に制作し、自分の創造性を育てることができるからです。

(3)「効果の上がる学習方法」を学び、それを使ってどんどん勉強できるからです。

(4)先生は皆親切で、ていねいにわかりやすく、わかるまで教えてくれるからです。

(5)気軽に話せるお友達もいるからです。

**Q 5 : 最後に一言どうぞ。**

A : (1)「サードプレイス(第三の居場所)」とは、そこで、どんな小さなことでも、自分のしたいことができる、自分の夢や希望を叶える、自分の夢や希望に挑戦できる場所だと考えます。

(2)そのような意味での、自分にとっての「サードプレイス」はどこか。じっくり探してみませんか。

(3)①よく探せば、家庭の中、学校や職場の中にも、夢や希望を叶える場所、「サードプレイス」はあるかもしれません。

②学校図書館、公共図書館、開倫塾こそ、皆さんにとっての「サードプレイス」と考えます。

③どうか、学校図書館、公共図書館、開倫塾に慣れ親しんで、自分の夢や希望を実現する場所、「自己実現」の場所にして下さいね。



(4月21日記)